

がん生存率公表

厚生省 19施設は実名

厚生労働省研究班（主任研究者・猿木信裕群馬県立がんセンター手術部長）は、がん専門病院などをつくる「全国がん（成人病）センター協議会（全がん協）」加盟施設の一部について、施設別の胃、肺、乳、大腸、子宮頸の計五種類のがんで治療五年後の生存率を集計し、三日付でインターネットで公表した。うち十九施設は実名入り。

（3面に関連記事）

肺がんで51・5―21・9%、胃がんで81・6―55・8%など、施設により生存率が20%以上開く例もあったが、研究班は、生存率間

は患者の重症度が大きく左右される上、現在のデータ精度には限界があるとして「安易に生存率だけ比較しないで」と求めている。

基準が統一されていない「病院ランキング」情報がはんらんする中、一定基準でのデータで情報公開を進める一方、施設側や行政に、信頼できるデータ蓄積の重要性を訴える狙いもあるという。

研究班は、一九九九年と二〇〇〇年の二年間に初めて入院治療を

胃・肺など5種 治療5年後

胃がん（20施設）

施設名	生存率 (%)	症例数 (手術率)	1期・4期比
大阪府立成人病センター	81.6	485 (64.3%)	6.2
新潟県立がんセンター	78.8	682 (73.2%)	3.6
山形県立中央病院	75.7	396 (65.9%)	3.6
兵庫県立がんセンター	74.9	329 (79.0%)	4.5
栃木県立がんセンター	73.8	350 (70.3%)	4.4
神奈川県立がんセンター	73.6	476 (76.5%)	3.0
宮城県立がんセンター	72.4	239 (82.4%)	4.0
福井県立病院	72.4	383 (72.1%)	3.2
九州がんセンター	71.8	217 (82.0%)	2.7
千葉県がんセンター	70.6	368 (84.5%)	2.9
群馬県立がんセンター	63.5	312 (65.1%)	2.3
茨城県立中央病院	61.4	283 (71.4%)	2.0
四国がんセンター	61.3	338 (59.5%)	2.0
*	60.7	135 (85.2%)	2.4
*	58.1	503 (69.4%)	1.3
*	55.8	222 (72.5%)	2.3
△国立がんセンター中央病院	84.1	541 (70.2%)	12.3
△*	75.0	474 (63.7%)	4.1
△愛知県がんセンター	69.8	252 (61.9%)	2.9
△埼玉県立がんセンター	62.4	216 (54.6%)	1.6

肺がん（21施設）

施設名	生存率 (%)	症例数 (手術率)	1期・4期比
大阪府立成人病センター	51.5	411 (59.6%)	2.4
栃木県立がんセンター	43.3	248 (55.6%)	1.6
新潟県立がんセンター	43.3	622 (50.5%)	2.6
四国がんセンター	39.7	293 (34.5%)	1.4
千葉県がんセンター	38.9	271 (53.9%)	1.3
兵庫県立がんセンター	38.5	498 (50.2%)	1.5
神奈川県立がんセンター	37.9	499 (43.3%)	1.0
山形県立中央病院	37.2	163 (52.8%)	1.0
九州がんセンター	35.8	282 (50.7%)	1.2
北海道がんセンター	32.3	331 (21.1%)	1.1
呉医療センター	31.6	206 (32.5%)	0.8
福井県立病院	30.4	154 (39.6%)	0.9
*	29.5	385 (40.0%)	0.7
山口県立総合医療センター	29.1	113 (42.5%)	0.8
*	28.4	179 (45.8%)	1.3
宮城県立がんセンター	27.4	242 (32.2%)	1.0
群馬県立がんセンター	21.9	204 (28.9%)	0.5
△愛知県がんセンター	40.6	274 (35.0%)	1.5
△*	36.8	306 (45.1%)	2.3
△埼玉県立がんセンター	33.9	216 (45.8%)	0.9
■国立がんセンター中央病院	68.2	575 (100%)	28.3

＜乳・大腸・子宮頸がんの表は3面に掲載＞

*は名称公表に同意しなかった施設、△はデータ1年分のみ、■は手術例のみ解析。「1期・4期比」は早期がんと進行がんの比率。数字が大きいほど早期がん患者が多い

受けた患者について全

がん協の二十六施設か

らデータ提供を受け、

①症例数が百以上②生

死を把握できた追跡率

が90%以上③などの基

準を満たした施設の生

存率を求めた。算出で

きた施設数は胃がん二

十、肺二十一、乳十八、

大腸十七、子宮頸八。

それぞれ一―四施設が

施設名公表に同意しな

かった。

公表データは、最も

早期の1期から、進行

した4期までの病期別

生存率や症例数のほか

手術率、早期患者が多

いか重症患者が多いか

を示す1期・4期比な

どを含む。

生存率の差が最大だ

った肺がんでは、大阪

府立成人病センター

(51・5%)と群馬県

立がんセンター(21・

9%)は29・6%の差

だったが、手術率も59

・6%対28・9%と違

いが大きく、群馬は手

術できない重症患者

が多かったことがう

かがえるという。研究

班の猿木部長は「生

存率は施設の優劣を

示すものではない。こ

れで治療先を選ぶの

ではなく、医師と話し

合う資料にして」と話

す。

同研究班による生存

率公表は、九九年の治

療のみを対象にした昨

年に続き二回目。今回

新たに子宮頸がんが加

えられ、実名公表施設

も四力所増えた。

データ掲載のURL

は[http://www.gun](http://www.gunma-cc.jp/sarukih)

[ma-cc.jp/sarukih](http://www.gunma-cc.jp/sarukih)

施設間の比較は困難

とした。

子宮頸がん（８施設）			
施設名	生存率 （％）	症例数 （手術率）	1期 4期比
兵庫県立がんセンター	85.9	150（82.7%）	31.3
群馬県立がんセンター	76.4	101（53.5%）	6.1
九州がんセンター	73.8	110（57.3%）	9.5
神奈川県立がんセンター	72.2	151（55.6%）	5.8
＊	71.3	107（48.6%）	5.3
四国がんセンター	69.2	139（36.0%）	3.9
△＊	63.8	128（57.0%）	9.2
国立がんセンター中央病院	70.1	143（記載なし）	8.0

を盛り込んだ政府へ

とした。